



「ゴルフ」

老いを上手に受けとめながら
ベストのゴルフを目指します

須高車輛販売株式会社

代表取締役社長 **伊藤 雅章氏**



会員の趣味を紹介するシリーズ。第十四回は県アマチュアゴルフ選手権の優勝経験をもつ伊藤雅章さんに、50代からのゴルフの楽しみ方を聞いた。

—ゴルフを始めたのは30代だそうですね。元高校球児で甲子園出場経験もある伊藤さんにとって、ゴルフは最初から相性の良いスポーツだったのでしょうか。

初めはちっとも面白みを感じませんでした。そもそもは32歳のとき、整備部門から営業職に移ったのを機に、親父に強制的に連れていかれたのが始まり。野球経験者にありがちな、飛距離は出るがまっすぐ飛ばないパターンで、いつまでも親父のゴルフ仲間に勝てずにいました。ところが数年経つうち、短めのショットやアプローチを確実にグリーンに乗せる練習を集中的に行くとスコアが徐々に伸び、38歳で当時(2002年)の長野カントリーのコースレコード「67」を記録、44歳で県アマ選手権優勝。結果が出ると練習も楽しくなり、40代は勝つ嬉しさはどうやってもうまくいかない歯がゆさや怖さを知りました。

—ゴルフは精神面が勝敗を大きく分けるスポーツでもあります。トッププレイヤーがひしめく中で平常心を保つには何か秘訣が？

県アマでの優勝は、最終日の冷たい雨で周りがスコアを崩す中、自分は大崩れしなかったことでつかんだ幸運でした。雨でのプレーは誰でも嫌ですが、自分はある程度嫌わず、逆に楽しむくらいの気持ちで臨むようにしています。それは高校時代から体育会の厳しい縦社会の中で、我慢を身に着けたことが大きいかもしれません。それと勝つときはだいたい、良いショットを打とうとか勝ちたいとか考えないとき。あそこに打っておけばよい、あそこには打ってはいけないと、それだけ考えると集中力が増すように思います。

—50歳を過ぎた今も県内のトップアマが揃う大会でご活躍ですが、40代の頃とはゴルフとの向き合い方が変わってきたそうですね。

49歳から5年連続で両膝や右肘、内科疾患の手術を経験し、衰えを実感せざるを得なくなりました。しかし身近には、70代後半で私より良いスコアを叩き出す先輩がいる。自分も20年後あんなふうにはゴルフを楽しむには、今ここで身体づくりに真剣に取り組まねばならないと、半年前からジム通いを始めました。最近下半身の筋肉がついてきたので、今シーズンの結果につながるといういなとワクワクしているところ。いずれはスコアよりも山でいい空気を吸うのが楽しみというゴルフになるのですが、そうなるまで健康なプレーヤーでいるのが、将来に向けた新たな目標です。

Profile

■伊藤 雅章 (いとう・まさあき)

昭和39(1964)年生まれ、54歳。松商学園野球部出身、2年生で夏の甲子園大会ベンチ入り。その後専修大学野球部に進み、卒業後東京トヨペット株式会社に就職。26歳で父親が経営する同社に入社、41歳から現職。

■須高車輛販売株式会社

昭和35(1960)年設立。新車・中古車の販売、自動車整備、車検、レンタカー事業。前身の運送車両整備会社から引き継いだ整備技術、修理、故障対応が強み。須城市墨坂1-1-8。

